

(様式1)

令和4年度学校経営計画

1 学校教育目標

「強い意志と豊かな情操を身に付けた人間を育てる」

- ・主体的に環境に関わり、その意志を実現しようとする児童生徒
 - ・もてる力を十分に生かして、必要な支援の下に自立的な生活を営もうとする児童生徒
 - ・趣味や生きがいのある、心豊かな生活を実践する児童生徒
- ＜校訓＞ 明るく、仲よく、たくましく

2 学校の特徴

- ・肢体不自由のある児童生徒に対する教育を行うための特別支援学校である。小学部・中学部・高等部の3学部を設置しており、医療施設（富山県リハビリテーション病院・こども支援センター）に隣接している。また、高等部こまどり分教室が高岡市立こまどり支援学校に併置されている。
- ・在籍している児童生徒は、隣接医療施設又は高岡市きずな子ども発達支援センターで肢体不自由の治療や訓練を受けており、在籍児童生徒の26%が医療施設に入所している。
- ・児童生徒の通学の形態は、隣接医療施設からの通学与保護者送迎による自宅からの通学である。
- ・在籍児童生徒は、肢体不自由の単一障害から常時医療的ケアが必要な者など、障害が多様化しており、一人一人の教育的ニーズに対応するため、4種類の教育課程を編成している。
- ・近隣の小学校・中学校・高等学校との交流及び共同学習や居住地校交流を計画的・継続的に行っている。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

- ・障害の程度、発達段階が大きく異なる児童生徒が在籍している。また、隣接医療施設に入所して治療や訓練を受け、2～6か月後に前籍校へ戻る児童生徒の転出入が年間15件程度ある。
- ・在籍児童生徒の約8割以上が、肢体不自由の程度が重度であり、肢体不自由と知的障害等が重複している。その約4割が医療的ケア児であり、児童生徒の障害の重度・重複化が進んでいる。
- ・児童生徒一人一人の実態やニーズに応じた指導の充実を図るため、学校・家庭・隣接医療施設・関係機関が協力して個別の教育支援計画の作成や情報の共有、キャリア教育等に取り組んでいる。
- ・児童生徒の健康の保持や学力保障、進路指導等の充実を図るため、肢体不自由教育に関する専門性の向上のための研修を計画的に実施している。
- ・中新川・滑川地域の幼・保・認定こども園・小・中・高等学校の特別支援教育の推進及び県内の肢体不自由児の指導に関して積極的に支援している。

(2) 課題

- ・個に応じた教育課程編成による学力の保障
- ・障害の状態や発達の程度に配慮した健康の保持並びに安全に配慮した支援体制の充実
- ・卒業後を見通した進路指導の充実
- ・隣接医療機関と連携した教育の推進
- ・肢体不自由教育に関する専門性の向上
- ・特別支援教育のセンター的機能の充実
- ・新型コロナウイルス感染症に対応したリモート授業等を実施するための環境整備

(様式2)

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 【重点1】	目標	<ul style="list-style-type: none">・<u>児童生徒の実態に応じたタブレット端末の活用方法を検討する。</u>・児童生徒一人一人の実態に基づいた目標や内容の設定、評価の工夫を通して、効果的な指導や支援の方策を探る。・基礎学力や基礎的な生活習慣の定着を図るとともに、社会や身の回りの事象への関心を高め、集団生活、進学先や社会生活に適應する態度や技能を育てる。・新学習指導要領の完全実施に向けて、移行措置並びに移行期間中における学習指導等の概要を把握して履修内容の重複や学びもれがないよう学習を進め、当該年度にスムーズに移行できるようにする。
		計画	<ul style="list-style-type: none">・「タブレット端末活用事例一覧」を作成し、教員間で活用方法等の情報を共有する。・近隣の高等学校とWeb会議システムを用いた交流学习を実施する。・個々の児童生徒の教育的ニーズや障害の状況に沿った個別の指導計画を作成するとともに、一人一人の実態に応じた教材・教具を工夫し、実践する。
2	学校生活	目標	<ul style="list-style-type: none">・児童生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう、環境や体制を整える。・児童生徒の実態に応じた健康管理を推進し、安心して安全な医療的ケア等を実施する。・児童生徒の災害に対する意識を高めるとともに、教職員の知識・技能の向上を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none">・健康に関する一人一人の実態や配慮事項について把握し、状態の変化を早期に発見し、適切な対応ができるようにする。・緊急時に迅速で適切な対応ができるように緊急対応訓練等を実施する。また、健康・安全に関する講習会を計画的に開催する。・火災、地震、不審者侵入時を想定した避難訓練を実施し、児童生徒一人一人の安全確保や避難の方法を検討する。
3	進路支援	目標	<ul style="list-style-type: none">・教員や保護者を対象とした福祉サービスの制度や各サービスの内容等を知るための進路に関する学習会等を開催する。・自己を理解し、生き方に関する指導を重視し、児童生徒一人一人が主体的に進路について考えることができるよう支援する。・進路支援体制の確立を図るとともに、保護者及び関係機関等と連携し、それぞれのニーズに応じた進路支援を行う。
		計画	<ul style="list-style-type: none">・教員や保護者に進路に関する調査を行い、どのような情報が必要かを把握したうえで、ニーズに合った研修を実施する。・社会自立・参加についての理解を深め、生活に関わる基礎的な能力を習得できるように、各学部が連携してキャリア発達を促す教育を推進する。・保護者・関係機関等との連携を図ることにより、地域生活へ円滑に移行できるように、ネットワークづくりを推進しながら中・長期的な支援体制を整える。

4	特別活動 【重点2】	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ボッチャ競技の普及を推進し、児童生徒のスポーツを通じた交流を深める。</u> ・ 児童生徒の読書環境を整備し、多くの図書に親しめるようにする。
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の卒業生であるパラリンピックメダリストを講師として招き、ボッチャの大会や指導者講習等を開催する。 ・ 「お話を聞く会」などの図書に関連した行事を開催したり、図書だよりや図書室前の掲示を活用したりして、図書に関する啓発を行う。また、読書カードを活用し児童生徒の読書活動の推進を図る。
5	その他 【重点3】	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>個別の教育支援計画の共有を家庭だけに留めず関係機関まで広める。</u> ・ コロナ禍におけるPTA活動の在り方を検討する。 ・ 肢体不自由を対象とする特別支援学校の教員としての資質と指導力の向上を目指し、校内研修を充実する。 ・ 地域の特別支援教育のセンター的機能としての役割を果たすために、幼・保・認定こども園並びに小・中・高等学校等への支援の充実を図る。また、本校教員の資質向上に努める。 ・ 保護者、地域及び関係機関等との連携を密にし、本校への理解と協力を求める。 ・ 情報管理の徹底を図る。
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の教育支援計画（写し）を保護者の了解を得て関係機関に渡す手順とその目的を担当に伝えるとともに、関係機関と情報交換を行った結果について担任にアンケートをとり成果と今後の課題を確認する。 ・ PTA行事の代替する活動や実施方法を検討し、コロナ禍にあっても保護者が情報を共有・交換できる場を設定する。 ・ 肢体不自由教育に関する専門性を高めるために、外部の専門家を招へいし障害種別研修等を実施する。教員の研修ニーズを把握し、指導内容、指導方法を学び合う機会を設定する。 ・ 中新川・滑川地域（滑川市、上市町、立山町、舟橋村）のセンター校として幼・保・認定こども園・小・中・高等学校等へ教育相談リーフレットと支援だよりを配付し、支援内容等の周知を図る。 ・ 教職員を対象とした情報モラルやセキュリティについての研修会等を計画的に実施する。

(様式3)

5 今年度の重点課題

令和4年度高志支援学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動 - 小学部 -	
重点課題	児童の実態に応じたタブレット端末の活用について	
現 状	<ul style="list-style-type: none">・ 肢体不自由のある児童の実態が多様化していることに伴い、学習活動の中でICT機器が大きな役割を果たすようになってきている。昨年度、タブレット端末が一人1台配備され、授業の中でタブレット端末の効果的な活用の仕方が見出されている。・ 研修部でICT機器を活用した授業事例や自作デジタル教材を集約し、「ICT機器活用事例」として一覧にまとめた。この事例を参考にして、教員のタブレット端末活用技能の向上を図っている。・ タブレット端末の有効な活用に不慣れな教員がおり、児童の実態に応じた活用には至っていない。昨年度のタブレット端末の活用事例を作成、参考にした教員の割合は、約62%であった。	
達成目標	「ICT機器活用事例」やタブレット端末の活用事例を授業で利用した教員の割合	70%
方 策	<ul style="list-style-type: none">・ 令和3年度の「ICT機器活用事例」を参考に担当児童の実態に合わせて授業の中で利用したり、改良したりする。・ タブレット端末の活用方法を集約した「タブレット端末の活用事例一覧」を作成し、利用する。・ 活用事例の利用についてアンケートを取り、授業でのタブレット端末の活用について気付いたこと等を教員間で共有する。	

令和4年度高志支援学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	特別活動 - 生徒指導部 -	
重点課題	ボッチャ競技の普及・推進 ～誰もが参加できるスポーツの企画をめざして～	
現 状	<ul style="list-style-type: none">・ 本校の卒業生がパラリンピックボッチャ競技で、2大会連続メダルを獲得したこと等をきっかけに、児童生徒のボッチャに対する興味関心が高まった。昨年度は体育の授業や校内「チャレンジ・ザ・ボッチャ」でボッチャ競技を体験したり、選抜された中高等部生徒が「全国ボッチャ選抜甲子園」の予選に参加したりした。・ 今年度は、小学部の児童や障害の程度が重度の児童生徒も、特別な場で活躍し達成感を味わえる機会を増やしたいと考える。ボッチャを通じて、スポーツ活動に意欲的に取り組み、学部を超えた交流を深めたいと考える。	
達成目標	全員参加の校内ボッチャ大会の開催	年1回以上
	パラリンピックメダリストを招聘してのボッチャ教室の開催	年1回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・ 各学部に「チャレンジ・ザ・ボッチャ」コーナーを常設し、いつでも体験できるようにする。・ 全員が参加できる校内ボッチャ大会（12月頃）を開催する。・ 卒業生のパラリンピックメダリストを講師として招き、ボッチャ教室（分教室含む）を開催する。・ 中高等部（分教室含む）生徒へ「全国ボッチャ選抜甲子園」参加への啓発を行い生徒の参加意欲を高める。	

令和4年度高志支援学校アクションプラン - 3 -

重点項目	その他 - 支援部 -	
重点課題	個別の教育支援計画の活用	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画は、児童生徒一人一人の合理的配慮や支援目標を具体化し、家庭や関係機関等と連携して効果的に支援を行うための重要なツールである。 ・本校の児童生徒は健康を保持するための日常的なケアや配慮を必要とし、意思の表出等に困難を抱えている。全児童生徒が併設されている医療機関を、約半数の児童生徒が福祉施設を利用している。個別の教育支援計画を関係機関と共有することは重要であるが、現状は学校と家庭との共有にとどまっている。 ・昨年度末、県教育委員会は関係機関と情報を共有しさらに連携するために、個別の教育支援計画の様式を改訂した。今後、個別の教育支援計画を関係機関と共有し活用していくことが求められている。 	
達成目標	・関係機関に個別の教育支援計画（写し）を渡し、情報共有や情報交換を行った児童生徒の割合	70%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画（写し）を保護者の了解を得て関係機関に渡す手順とその目的を担任に伝える。 ・個別の教育支援計画を使って情報共有や情報交換を行った結果について担任にアンケートをとり、成果と今後の課題を捉える。 	